
惚物語 ポケモノガタリ

斎藤一樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

惚物語 ボケモノガタリ

【Nコード】

N2532W

【作者名】

斎藤一樹

【あらすじ】

学校の文芸芸術同好会の顧問の先生の提示したテーマ、お茶を基に書いた短編です。タイトルは 化物語 シリーズのパロディですが、本編には一切の関係がありません。

むかしむかし、あるところに、お爺さんとお婆さんが居ました。ある日お爺さんは山に鹿狩りに、お婆さんは川に探索に行きました。お爺さんは猟師、お婆さんはトレジャーハンターだったので。年寄りの割には活動的ですね。と言うか探索って何を探索するつもりなんでしょうか。

まあ、閑話休題。その日、お爺さんは山で光り輝く竹を見つけました。お爺さんはそれを化け物だと思ったので、手に持っていたライフルで撃ち抜きました。同じ頃、川ではお婆さんがとても大きな桃が流れてきたのを見ました。見ましたが、あまりにその桃が大きかったのでそのまま見送りました。

その日の昼過ぎ。お爺さんは山から、お婆さんは川から家に帰ってきて、今は縁側でお茶を飲んでいる様子としています。

「そついえば爺さんや」

ずずつ。

「何じやい、婆さんや」

ずずつ。

「先ほど川で、旧日本軍の不発弾を見つけたのですがね」
何見つけちゃってますかねこの人は。

「ふむふむ」

ずずつ。

あんたももつと驚けよ。

「まあそついう事もあるじゃろう」

え、コメントそれだけ？

「そついえば婆さんや」

ずずつ。

「何ですか、爺さんや」

「今度、ガトリングガン、と言うものを買ってみたいのじゃが、のう?。」

おねだりするお爺さん、腰が低いです。

「やめときなされ、アレは反動が強すぎるであかんずずつ。」

いや、そういう問題じゃ無いでしょうに。

「そ、そうかのう?。」
ずずつ。

「どうせ買うならサブマシンガンぐらいにしときなされ」
サブマシンガンならいいのか。

「しかし、今日も平和じゃのう」
会話は物騒ですけどね。

「今日もお茶がおいしいですねえ」
ずずつ。

「そうじゃのう」
ずずつ。

「……………」
「婆さん、魂が抜けておるぞ!」

口から抜けていきましたね。

「はっ、あぶなかった……………」

「だ、大丈夫かの…………?」

「お花畑が見えましたよ、爺さんや」

「死にかけとる!」

「そういえば向こうに、大きな川もありましたね」

それ、三途の川!

「ほれ、これでも飲みなされ」
ずずつ。

「おいしいコーヒーじゃのう、爺さんや」

「婆さんが惚けた!」

それ、緑茶です。

「分かってますよ、わざとですよ、わ・ざ・と」

「そ、そうか……。ならいいのじゃが……」

「これはコアですよね」

「もうお仕舞いじゃあッ!」

もう一度言いますが、それ、緑茶です。

「? どうしたんです、爺さんや」

「婆さんや、病院行こう、な」

「病院? ああ、あの髪の毛を切りに行く、」

「それは美容院じゃ!」

「はて?」

「惚けとボケが交ざつとる!」

何やってるんでしょうね。

「ふう、お茶がおいしいですねえ」

ずずつ。

「婆さんが戻った!」

「やはり紅茶はウバ茶ですねえ」

ずずつ。

「やっぱりダメじゃった!」

繰り返しますが、緑茶ですからね。

「どうしたんです、爺さんや」

「やっぱり病院行こう、婆さんや」

その後の彼らを知る者は、誰も居ないと言う……。。

〈 F i n 〉

（後書き）

どうも、斎藤一樹です。今回は Daily はお休みで、以前書いた話をコピペして掲載することになりました。それもこれも皆全て宿題が（ry

さて、この短編の制作裏話と言うか発端がありまして。今から大体一年ほど前、文芸芸術同好会（以下、文芸）の顧問の先生が「何かテーマを出すのでそれに沿った短編を一本」という課題を出してきました。そして先生はおもむろに近くを通り掛かった先輩を呼び止めて、「キミは今何を考えていますか？」という質問を投げ掛けました。先輩、最初は突然の事に面食らって鳩が豆鉄砲喰らったような顔をなさってましたが、どうにか気を取り直したのか、怖ず怖ずと「……ええと、…お茶です……」と答えました。喉が渴いていたんでしょうか。この切り替えの早さは素晴らしいと思います、私だったらワンテンポ遅れて「……………は？」みたいなリアクションを返していた事でしょう。

兎も角、こうして、この作品のテーマが決定されました、まる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2532w/>

惚物語 ボケモノガタリ

2011年10月9日14時42分発行